

作成日：平成20年 4月24日

同日授業後に一部加筆修正

担当：准教授 樋口 良之

システム設計論 課題1 DFDとフローチャートの演習  
システム挙動の表記の演習（1/2）

次の注意事項に従い、システムを選定し、DFDとフローチャートを作成しなさい。

1. システムの選定 情報システム、業務システム、日常生活に見られるシステムなどから、各自が、自由に演習の対象となるシステムを選定し、適切な名称を付与する。あまり大きなシステム、複雑なシステムを選定しない。また、あまりにも簡単なシステムも選定しない。一見、単純なシステムでも、掘下げて考察してみると、かなり複雑なものである場合もある。
2. システムの概要説明 200字程度の日本語で選定したシステムに解説しなさい。また、レポート読者に理解を深めてもらう配慮を希望する場合には、図表を挿入するなどの工夫をしてもかまわない。
3. DFDの作成 選定したシステムを分析しDFDを作成しなさい。
4. フローチャートの作成 選定したシステムを分析しフローチャートを作成しなさい。

以上について日本語でレポートを作成する。レポートの分量としては、A4サイズで3ページ以上、10ページ未満程度を期待している。**レポートの提出は、平成20年5月8日（木）13：00から13：15の間の授業のときとする。**なお、遅刻、欠席などの予定がある場合には、知人に預けるなどの手配をする。**今回のレポートに基づき次回の課題を出しますので、各人、今回のレポートを複写し保管しておくようお願いする。**

なお、本レポートは、成績評価において「システム挙動の表記の演習」の評価30点満点のうちの15点を占めるものである。また、後日、UMLの学習完了後に、今回選定したものと同一システムを対象にして、「システム挙動の表記の演習」を行い、その結果を15点満点で評価し、今回のレポート評価とあわせて、30点満点の評価となる。

次回の5月1日の授業は、自由出席とし、課題の学習、レポートの作成に努める。なお、

担当講師は、教室に待機し、質問に対応する。なお、本紙およびレポート作成時の注意は講師Webサイトにも掲載されており、必ず参照すること。(http://www.hi-higuchi.com/)

レポートはA4サイズ縦置きで作成する。A3サイズ用の紙へ記述する方が見やすい場合もあるが、そのような場合には、記述したものを、A4サイズに収まるように折りたたみ、A4サイズのレポートとしてまとめる。ステープラーでとめたときに、見開きできないような状況にならないように注意する。

レポートに表紙はつけない。レポートは左上を1箇所ステープラーでとめる。左側中央を基準に2穴のパンチ穴をつくる。レポートには用紙の右上にページ数を付す。例えば、全5ページのレポートであれば、1/5、2/5、3/5、4/5、5/5といったようにページを付す。また、レポートに表紙を付すことを望んでいないため、1ページ目の最初に提出日、提出先、提出者学籍番号と氏名、レポートに適切なタイトルを名付け記述する。例えば、最初のページは、次のようになる。

— — —最初のページのイメージ例 ここから— — —

1 / 5

平成19年 5月31日

システム設計論ご担当  
准教授 樋口 良之 様

200610A2  
産業 太郎

パスポート発行窓口での受取手続きのシステム

## 1. 対象システムの名称と概要

— — —最初のページのイメージ例 ここまで— — —

以降、レポート作成者の判断で自由に記述してかまわないが、章、節、項などの区分をしたポイントシステムによって記述する。区分ごとに適切なタイトルを付して記述するなど、理解されやすい表記につとめる。「ビジネス社会に有用な人材となる訓練を兼ねた授業

とする」との観点から、ビジネス文書、報告書などを念頭に、レポートを作成する努力を求める。話し言葉ではなく、書き言葉で記述する。

レポートの記述にあたっては、上下左右の余白を25ミリ程度とり、大きすぎず、小さすぎず、配慮する。また、文字の大きさは、12ポイントを基準とする。行間は、詰めすぎず、広げすぎない。本手引きを目安に作成する。

- ・レポートをまとめるにあたり、できるだけ図表を多用する。
- ・レポートが作成できたら、必ず精査し、誤字脱字の修正、ロジカルシンキングといった視点に立って、加筆修正を繰り返す、本当に満足のいくレポートに仕上げる。エビデンスとして、提出するレポートに、自ら添削したレポート（校正原稿）を添付するなどの努力の経過を示すこともかまわない。
- ・本文中に引用、参考にした書籍、論文、記事などを「文献」として、レポートの最後に記載する。

例： （1）島田、経営情報システム 改訂版、日科技連、pp273-282、2001

追記1. 産業社会に有用な人材となる訓練を兼ねた授業でもあるので、乱雑な印象を与えるものは、減点の対象となる。

レポートは左上を1箇所ステープラーでとめる際、乱雑なものも見受けられる。ていねいな取扱いを心がける。なお、自ら添削したレポート（校正原稿）を添付する場合には、ダブルクリップなどを使用する工夫をしてかまわない。

レポートの左側中央を基準に2穴のパンチ穴をつくる際、ペン先などで穴を開けるのではなく、穴あけパンチなどの文具を使用する。ていねいな取扱いを心がける。

以 上